

佐渡ジオパーク 日本認定10周年記念事業



立岩 (人面岩)



佐渡でめぐる大地と人の物語

～ 学ぼう、遊ぼう、食べよう ～

2023(令和5)年7月7日(金)～8日(土)

主催：佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業実行委員会

共催：佐渡市、佐渡市教育委員会、佐渡ジオパーク推進協議会

後援：特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会、新潟県佐渡地域振興局



尖閣湾の海蝕崖

これからの佐渡ジオパークが目指すもの

①「大地」「生き物」「文化」のある佐渡島（さど）。

その魅力をじっくり見つけ、大事にしながら、心豊かに、持続可能な「島づくり」や「人づくり」を進める。

②大地の変動によって佐渡特有の地形が生まれ、その地形を生かした暮らしが歴史となり文化となった。

それらを守り続け、佐渡市が取り組むローカルSDGs（地域循環共生圏）を推進する。

③佐渡島（さど）の3つの宝（ジオパーク、世界文化遺産、世界農業遺産）を大切に、連携しながら発展していく。

タイムスケジュール

2023年7月7日（金）

エクスカーショ	13:00～18:30
祝賀会（立食）	18:30～20:30

2023年7月8日（土）

記念式典	9:00～12:00
赤坂アカさんのサイン会	12:15～16:00
パネラーによる講演会	13:00～15:00
ジオ科学体験教室	13:00～15:00
子どもの学習発表	展示 10:00～15:45 コアタイム 15:00～15:45

ジオパークガイド意見交換会

新潟圏域ジオパークガイド意見交換会同時開催

2023年7月8日（土）意見交換会 16:00～18:00

ドンデン高原にて別途開催

2023年7月8日（土）交流会 19:30～21:00

2023年7月9日（日）研修会 8:00～11:00



野生のトキ



県有林石名団地の天然杉

エクスカージョン

2023年7月7日(金) (13:00~18:30)
会場：あいぽーと佐渡集合、現地

1 太古の時代コース【佐渡の土台となる岩石を探る】



コース：藻浦 → ニツ亀 → 大野亀 → 北鶴島

コース概要

佐渡島最古の地層はどこからやってきたのか?その地層はどのようにしてできたのか?
佐渡島の土台となっている岩石を探るコース。



2 大陸の時代コース【なぜ佐渡で金が採れるのか?】



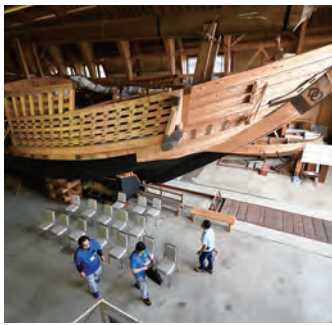
コース：きらりうむ佐渡 → 金山第5駐車場 → 金山宗太夫坑 → 吹上海岸 → 尖閣湾

コース概要

激しい火山活動によって生み出された佐渡島の金銀鉱床について、そのルーツを探るコース。



3 海の時代コース【かつて佐渡は海の底にあった！】



コース：小木民俗博物館 → 岩屋山石窟・横井戸
→ 宿根木集落・たらい舟体験 → 宿根木
海岸 → 沢崎海岸

コース概要

海底火山の活動によりできた黒い大地が広がる佐渡島南部を特徴的な海岸線のスポットを中心に巡るコース。



4 島の時代コース【探求しよう！母なる大地の誕生】



コース：塩屋崎の砂嘴 → 人面岩 → 段丘、背合の海岸 → 三貫目鉱山、大須の海岸 → 大須鼻活断層

コース概要

磯の生き物、鉱物、漂着物を観察して佐渡島の成り立ちについて探るコース。



祝賀会（立食）

2023年7月7日（金）（18：30～20：30）
会場：国際佐渡観光ホテル八幡館 7階 スカイラウンジ

米田徹糸魚川ジオパーク協議会会長の乾杯のご発声から始まり、佐渡ジオパーク食を中心とした郷土料理や佐渡産米、5つの蔵元のお酒をご堪能いただきました。
鬼太鼓や民謡など、佐渡の芸能もお楽しみいただきました。

祝賀会



記念式典

2023年7月8日(土) (9:00~12:00)
会場：アミューズメント佐渡 大ホール

式次第

- 1 開会
- 2 来賓紹介
- 3 祝辞
- 4 祝電披露
- 5 佐渡ジオパーク10年の歩み
- 6 感謝状贈呈
- 7 基調講演
- 8 パネルディスカッション
- 9 閉会



開会



渡辺 竜五

佐渡ジオパーク推進協議会会長、佐渡市長

佐渡ジオパーク日本認定10周年記念式典「佐渡でめぐる大地と人の物語」においで頂きまして、誠にありがとうございます。ご

ざいます。また、古川日本ジオパークネットワーク理事長を初め、佐渡ジオパークを引っ張って頂いた米田糸魚川ジオパーク協議会会長など、多くの方々からご来賓としておいで頂き、改めて感謝申し上げます。

佐渡ジオパークは、様々な課題もありながら地域の中で色々な活動を進めてまいりました。多くの方々からご指導、ご支援を賜り、10周年を迎えられた事に、この場をお借りして感謝申し上げます。

佐渡は、大陸の縁が火山活動によって日本海側に離れて、沈んで、浮き上がってできました。沈んで浮き上がっていく過程で金の鉱脈ができ、佐渡金山ができたと言われていいます。島の形を見ても、2つの山脈とその真ん中に平野があり、この面白いダイナミックな地形が様々な物を生み出しているところが佐渡ジオパークの特徴です。佐渡は島であり、海では暖流と寒流が交わり、平野があり、山があり雪があり、四季があり、この地形の中から多くの人の営みが生まれてきました。

様々な歴史の中で、江戸時代には約8万人が佐渡に居たのではないかとされており、それだけの人が食べていくことが出来たところに大きな地政学的なポテンシャルを感じられるのではないかと思います。人が食べる、生活できる、そして金によって豊かになり、文化や歴史が生まれ、まちが生まれ、その中で今の佐渡の自然や風景、地域の祭りなどが生まれてきました。そしてこの美しい自然や豊かな文化、食を守り、未来の子どもたちにしっかり伝えていく、繋げていく、これが我々ジオパークに携わる者の最大の責務であろうと考えております。

本日は島外からも大勢お越しいただいておりますが、佐渡を楽しんで頂きながら、今日の記念式典を通して、ジオパークの素晴らしさ、そしてこれから未来に向かって協力し合っていくことを皆様と確認しながら進めていく、そのような式典になることを強く望んでおります。

最後に、ご来賓の皆様方の益々のご活躍、そして会場に来られた全ての方々のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

来賓紹介

古川 隆三郎 様	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク理事長 島原市長、島原半島ジオパーク協議会会長
花角 英世 様	新潟県知事
塚田 一郎 様	衆議院議員
西村 智奈美 様	衆議院議員
打越 さく良 様	参議院議員
米田 徹 様	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク顧問 糸魚川市長、糸魚川ジオパーク協議会会長
宮原 育子 様	日本ジオパーク委員会副委員長、宮城学院女子大学・宮城大学名誉教授 宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授
小泉 武栄 様	東京学芸大学名誉教授、元日本ジオパーク委員会委員 元佐渡ジオパーク推進協議会顧問
中川 隆一 様	新潟県議会議員、佐渡ジオパーク推進協議会顧問
北 啓 様	新潟県議会議員、佐渡ジオパーク推進協議会顧問
近藤 和義 様	佐渡市議会議長
広瀬 大海 様	佐渡市議会 総務文教常任委員会委員長
古澤 加奈 様	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク事務局長
大鳥 範和 様	新潟大学理学部学部長
藤林 紀枝 様	新潟大学教育学部学部長
篠崎 さえか 様	環境省関東地方環境事務所 佐渡自然保護官事務所首席自然保護官 佐渡ジオパーク推進協議会アドバイザー
高野 宏一郎 様	元佐渡ジオパーク推進協議会会長、元佐渡市長
岩立 恒 様	元佐渡ジオパークガイド協会会長
児玉 功 様	前佐渡ジオパークガイド協会会長
池 善世 様	佐渡ジオパークガイド協会会長
池 典比古 様	佐渡市教育委員会教育長職務代理者
瀧川 紀子 様	佐渡市教育委員会教育委員
岩崎 奈美 様	佐渡市教育委員会教育委員
後藤 まき子 様	佐渡市教育委員会教育委員
長嶋 俊介 様	佐渡市社会教育委員委員長
羽藤 政吉 様	佐渡市社会教育委員副委員長

祝辞



島原市長 古川 隆三郎 様

特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク理事長



新潟県知事 花角 英世 様

代理 佐渡地域振興局長 澁谷 有子 様

祝電披露

石破 茂 様	ジオパークによる地域活性化推進議員連盟会長、衆議院議員
桑原 悠 様	苗場山麓ジオパーク振興協議会会長、津南町長

■佐渡ジオパーク10年の歩み



相田 満久
佐渡ジオパーク推進協議会推進指導員



■感謝状贈呈 (五十音順)

- 神 蔵 勝 明 様 元佐渡ジオパーク推進指導員
 - 崎 尾 均 様 佐渡ジオパーク推進協議会 調査・研究部会員、新潟大学名誉教授、博士(理学)
 - 中川 清太郎 様 佐渡ジオパーク推進協議会会員、NACS-J自然観察指導員
 - 松岡 篤 様 佐渡ジオパーク推進協議会会員、新潟大学理学部教授、理学博士
 - 渡 邊 剛 忠 様 佐渡ジオパーク推進協議会顧問、元佐渡市教育委員会教育長
 - (故)池田雄彦 様 前佐渡ジオパーク推進協議会 調査・研究部会副部長、
前佐渡ジオパーク推進指導員、元佐渡学センター情報指導員
 - (故)小林巖雄 様 元佐渡ジオパーク推進協議会顧問、新潟大学名誉教授
 - (故)島津光夫 様 元佐渡ジオパーク推進協議会顧問、新潟大学名誉教授
- 佐渡ジオパークガイド協会 様



■ 基調講演

演題：

『サステナブルなジオパークへ』

講師

新名 阿津子 様

日本ジオパーク委員会委員、高知大学講師、博士(理学)



■ 基調講演 概要

この基調講演とパネルディスカッションで過去を振り返って未来を考える、そういう時間にしたい。

1. 地球の記憶をたどる旅

三陸ジオパーク、恐竜渓谷福井勝山ジオパーク、四国西予ジオパーク、スペインのマエストラスゴジオパークの特徴や取組を紹介したが、この四つの地域はジュラ紀の恐竜をはじめとする生き物たちの化石が産出する地域という共通項がある。地球上には様々な場所に地質遺産、つまり「地球の記憶」が刻まれている。三陸、勝山、西予、マエストラスゴと一見関係なさそうに見える場所でも、地質遺産を通して見ると「Rock connects us (岩石が私たちをつないでくれる)」場所となる。

2. ジオパークの歴史

ジオパークのスローガンは「地球遺産をたたえ、持続可能な地域社会をつくろう」である。この取り組みは2000年にヨーロッパでスタートし、2002年に世界ジオパークネットワークが発足、2015年にユネスコの正式なプログラムとなった。現在、世界48か国195地域がユネスコ世界ジオパークとして活動している。日本のジオパークは現在46か所あり、内10か所がユネスコ世界ジオパークに認定されている。

(1) ジオパーク登場の背景

ジオパークの登場の背景には、「地質遺産喪失の危機」と「持続可能な開発」の2つの文脈がある。地質遺産の価値が社会的に認識されずに十分に保全保護されてこなかったという経緯がある。「持続可能な開発」は、ご存知のとおり、世代間格差をなくして環境・社会・経済のバランスの取れた地域づくりを世界とともに実践するものである。

(2) ジオパークの誕生

フランスにアンモナイトの壁という素晴らしい露頭があるが、1980年代後半に盗掘事件が起こった。これを受けて、地質遺産を守ろうという動きが出てきた。そして、この盗掘事件が発生したディーニュにおいて、1991年に第1回地質遺産国際シンポジウムが開催され、「地球の記憶」の権利に関する国際宣言が採択された。これは地質遺産を保全することの重要性を宣言した最初の宣言文になる。同じ頃、レスボス島(ギリシャ)では、島の珪化木を盗掘から守りながら、農漁村の地域振興を模索していた。

そして、この課題に取り組んでいたフランスとギリシャの研究者が出会い、さらにドイツとスペインの研究者や政治家が加わって「ジオパーク」というアイデアが誕生した。

3. ジオパークの理念

ジオパークは、地域にある地形地質遺産を守り、自然文化を知り、守り、持続可能な開発を実践していく場所である。学び合う仕組みでもあるネットワーク活動も大切にしている。

4. ジオパークのガイドライン

日本にはジオパークに関する法律や条例、条約はない。ユネスコのガイドラインに定める8つの事項を遵守しながらジオパークの活動を進めている。特に、「他のユネスコと重なる場合は、ジオパークのブランドとの相乗効果が必要」というものがあるが、佐渡の場合は世界遺産候補地がある。ユネスコではないが、世界農業遺産や草原100選もある。今後、ジオパークと相乗効果を出していくことが求められる。

5. 最後に

ジオパークは、21世紀の新しい領域であり、常に自己変革が求められる取り組みである。グローバル課題や地域課題が山積する中で、ポストコロナ・ポストSDGsに向けて、佐渡でジオパークによる地域づくりをどういうふうに展開していくのかを、この後パネルディスカッションでパネラーの皆様と一緒に議論していきたいと思う。



ドンデン高原
(草原100選にも選ばれた佐渡のジオサイト)



深浦の海成段丘
(新名様の一番好きな佐渡のジオサイト)

■パネルディスカッション

テーマ：

『佐渡島の「大地」「生き物」「文化」の魅力を大事にし、
持続可能な「島づくり」「人づくり」を進めるには』

コーディネーター

■ 新名 阿津子 様 日本ジオパーク委員会委員、高知大学講師、博士(理学)

パネラー

■ 渡辺 竜五 佐渡ジオパーク推進協議会会長、佐渡市長

■ 松岡 篤 様 佐渡ジオパーク推進協議会会員、新潟大学理学部教授、理学博士

■ 野邊 一寛 様 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構事務局長、特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク事務局次長

■ 赤坂 アカ 様 漫画原作者、佐渡市出身

(新名) まずパネラーの皆様から自己紹介等お願いしたい。

最初に渡辺会長に、佐渡ジオパークの特徴や歩みについてご紹介をお願いします。

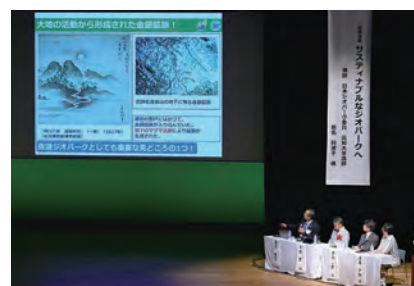
(渡辺) 佐渡の海は暖流と寒流が交わり、1000mを超える大佐渡山脈と平野、そして600mの小佐渡丘陵、大地がある。この地形が豊かな食を生み出す。それを含めて佐渡は発展し、そこに様々な歴史・風土・文化が根付いてきた。

佐渡には金を掘るために人が集まった。それと一緒に多くのお寺も作られた。これらの豊かさが、人の営みを含めてこのジオパークの風景を作っている。人が集まり、お金も集まる。新潟県で唯一の五重塔があり、鬼太鼓や能もどんどん地域で広がり、日本の能舞台の3分の1が佐渡にある。佐渡では神事として伝わったため、集落の中で大人も子どもも能に携わる。今も残っているというのは1つの文化。金山の富が大きな影響を与え、この奇跡の島を作った1つの大きな要因。まさしく佐渡ジオパークとしての重要な見どころ。これらを理解して学んでいくことがジオパーク活動にとって大事。

新潟大学演習林の中に天然杉がある。佐渡はお金が無くなってもお米の生産をして経済が回っていた時期がある。お米を作れたのは幕府が森を守ったから。佐渡の鉱山は硬いから危ないところはみんな木杵を使って掘るが、当時8万人の人口がいた佐渡で木を全部切って鉱山開発をしていたら、佐渡に人は生きていなかったかも知れない。ゴールドラッシュが無くなっても森が残っていた。これが人と自然との向き合い方だと思う。

金山があり富があり文化があり、集落ができて人がいるからお米を作る。そして棚田ができて朱鷺が最後までいた。これはまさしく江戸幕府のSDGsの取組だと思う。人が暮らす、まちをつくる、そこに経済効果を生み出す、そして自然と共生するという形が明確にできていた。これがジオパークの形。ジオパークから生まれたこの文化や風景を未来につないでいく。

佐渡ジオパークの特徴として、「地域を学ぶ」という活動がある。住民がジオサイト周辺の整備を行うようになり、住民やガイドが積極的に清掃活動に取り組んでいる。修学旅行などの子ども達への教育も進めている。「学ぶ」ことはすごく大事。ただ「教育」や「学び」は押し付けではダメで、ジオパークは「学ぶ」というより「楽しむ」ことが大事。楽しむ中に「学び」があると思う。今は「学び」に来るお客様が増えているが、楽しいツーリズムとして、その結果学ぶことができるのがジオパークである。佐渡には世界農業遺産があり、世界文化遺産登録を目指す「佐渡島の金山」もある。「知識のツーリズム」をどんどん展開していくことが非常に大事。これからのチャ



レンジになる。

(松岡) 毎年開催している企画展があり、今年は「みんなの石展」というタイトルで県内3つのジオパークの紹介ということを中心にしている。主催は新潟大学旭町学術資料展示館。特に夏休み中なので子ども達に楽しんでもらいたい。スタンプラリーがその中に組込まれており、県内の3つのジオパークと新潟大学を巡って素敵な記念品がもらえるという仕組み。新潟県外から来ている方も新潟県内のジオパークをこの夏楽しんでいただきたい。

(野邊) 私は今から30年ほど前に隠岐に帰ってきて役場に入り、2009年の4月にジオパーク推進協議会を立ち上げ、10月には日本ジオパークを取った。その後2013年に世界ジオパークを取った。なぜ私が世界ジオパークを目指したかという、島の子ども達に誇りと愛情を持って隠岐の出身だと言って欲しいということと、島民が隠岐の価値を知って自分の言葉で隠岐を語って伝えて欲しいと思ったからだ。隠岐に帰ってきた時、非常に面白い。それを学校教育にも観光にもブランディングにも使ってないと感じ、世界をどうしても取りたかった。僕らが小さい頃は大人になって島を出たら、二度と帰ってくるもんかと思っていた。でも、今の子ども達は中学生の約7割近くが将来隠岐に帰ってきたいと言ってくれる。それは「ユネスコ世界ジオパークだから」と言う。

今回、佐渡に7月5日から来て、島を一周し、色々な所を見た。資源があり余り過ぎるぐらいある。でもそれを残念ながら使っていない。もったいないと思った。そういう話ができたらと思っている。

(赤坂) 佐渡の風景の写真を撮って実際漫画に生かしている。実家にあったスーパーカブで写真を撮っている最中に宿根木辺りでガス欠になり、2時間近くバイクを押してガソリンスタンドに向かったことがある(笑)。それくらいジオパーク精神がある(笑)。その時、こんな変なものがある。これって何だろう、格好良いなと思ってパシャって撮って。後々周りの人に聞くとこれは佐渡特有のものだよとか、この変な田んぼって棚田って言うんだみたいな(笑)。

大人になってその佐渡の特殊性に気づいた。スーパーカブで街を走ったり、自転車でTSUTAYAに行ったりした途中で見たものが、大人になって答えを得られるのはすごく面白い。だから今日話を聞いていても、全然見たことがなかったことや気にしたこともなかったことが、こうやって大人になって知れて面白い。今日はお客さんとして楽しませていただけたらと思っている。

(新名) まず『佐渡島の「大地」「生き物」「文化」の魅力』というところから話を進めていきたい。

佐渡がジオパークの認定を受ける前と後では、その見え方の違い、魅力の違い、発信の違いみたいなものは何かあったか。

(松岡) 地質そのものは同じ。私は大学生への教育に当たっているが、ジオパークになる前は授業を担当する教員が資料を全部作らなければならなかったが、ジオパークになったら現場に行けば看板で説明してくれるようになった。

(赤坂) 僕は田んぼに囲まれている家で、永遠に地平線がバーッとなっていて。車で走ると朱鷺がいたりする。家のそばにいたりする。見渡す限りの田んぼがあり、TSUTAYAに行き、また見渡す限りの田んぼに戻っていく、というのが子どもの時の風景。

この間、友達の漫画家が佐渡取材したいと言ったので、僕なりに佐渡の魅力を伝えなきゃと思い、金山から宿根木を回ったり、このカニが…とか、「ラピュタ」みたいな所の話をした。友達に紹介する時に、ここはこんな深い場所だったんだっていうのを知れて、大人になって良かったなと思った。

(野邊) 佐渡に着いた時にハマナスが咲いていた。街を歩いているとシャリンバイが植えてあった。北海道と沖縄の植物が同じ場所にあるのにそれを全然生かしてない。植物から入ったり歴史・文化から入ったりした方がジオパークはすごく分かり易い。

隠岐ではビジターセンターで隠岐全体の話をした後に最初に神社に行く。普通産に連れて行くが、神社に行くと神社のお祭りの話や社殿の作り方の話をした後、「何故ここに神社があるんでしょうか」と考えてもらう。地形と関係する。そういうジオパークの方が面白い。本来のジオパークは、地質のストーリーじゃなく地域のストーリー。歴史・文化や植生とかを使った佐渡ジオパークにしていくと、もっともっと面白いジオパークになる。

(渡辺) 実は佐渡は花が大人気。山野草を見にトレッキングに来る。トビシマカンゾウと岩百合が一齐に咲く時期、素晴らしい風景がある。



文化も、お寺が多い。日本中から金を採るために集落へ引っ越してきた。寺も檀家がいなくなるから付いてくる。江戸時代には京都よりも相川の方がお寺の密度が高かったという。神社もどんどん出来てきた。

植生も北から南まで、例えばリンゴからレモンまで採れる所なので、非常に面白い島である。一方、情報発信力が弱いと観光に関しては感じている。

ジオパークも、世界農業遺産として食、農業の文化、花と合わせて「コト消費」を楽しんでいただける

ような仕組みを作る。世界文化遺産登録が非常に注目を浴びる大チャンスなので、しっかり情報発信と受け入れ体制を強化していきたい。

インバウンドも含めて、自転車などの多様な形でゆっくり楽しんでもらう、おもてなしをしっかりと考えていく。ジオパークも、世界農業遺産も観光チームも受け入れチームと一緒にあって、お客様が来た時に、何が魅力で何を発信していくかを考えることが大事。



(新名) ジオパークでも持続可能な観光に取り組んでおり、環境に優しいツアーのあり方、歩いてスピードを緩めると見える景色というのが非常に大事になっている。佐渡の皆様一丸となって取り組んでいただきたい。

(新名) 隠岐ジオパークと佐渡ジオパークの共通点や異なる点について気づいたことを教えてほしい。

(野邊) 植生がすごく似ている。その特徴を出すべき。

ジオパークは「なぜか？」を紐解く。なぜ天皇が流されてきたのか、なぜ植物が共存するのか、を紐解いていくと必ず地形や地質につながる。素晴らしいこの地球を守り続けていくという面では、佐渡で佐渡の話をするのではなく、佐渡から日本、世界を語れるようになっていけるとすごく良いと思う。我々島の間は島にあるものは日本中、世界中あると思ってずっと育ててきたが、他にないものが島に残っているんだということを伝えていくべき。絶対的な考えとしては共通している。

(新名) 今回のパネルディスカッションのテーマに対して皆様から一言ずつコメントをいただきたい。

(渡辺) 例えば朱鷺と生物多様性。あれだけの大型鳥類をわずか数十年で0から500羽に増やしているのは、世界でも佐渡だけだと思う。この島のポテンシャルに誇りを持ち、それはなぜなんだろうと考えると色んなものが見える。周りを見ると、大地の動き、生物多様性、脱炭素の問題、文化など、本質が見えてくる。地域で気づかないこともある。ぜひ一緒に考えながら見て楽しんでいきたい。

(松岡) やはり佐渡は海に囲まれているので「海」というキーワードがあると思う。釣りをする人達とどう一緒にやっていくのかという視点が大事。地質を調査する時はやはり露出の良い海岸線でやるが、釣りの人は海岸の何処をどう歩けば何処に行けるかをよく知っている。ルート開発など、釣りをする人とコラボすればいろんなことが分かるのではないかな。釣りの情報誌を見ると、ドローンを使った写真がいっぱい出ていて、我々の調査にも非常に参考になる。石の露出状況なども分かって研究にも生かせる。

(野邊) 今までの観光は、地域資源の消費型。環境保全がないと持続可能にならない。環境保全をするためには教育が必要。観光と環境保全と教育の3つをやるためには、ジオパークをベースにやっていく必要がある。これからの観光はジオパークによる環境保全をベースとした地域づくりをしなきゃいけない。ジオパークの可能性はまだまだあるし、観光もジオパークでやっていけると思っている。ぜひ一緒にこれからもジオパークを盛り上げていっていただけたらと思う。

(赤坂) 佐渡には、掘ってみないと分からない「金」みたいなものがいっぱいあると思う。大人になってちゃんと知識を得ないと気づけない価値のあるものが。佐渡には何かがあるということだけ子どもに伝えていけば、大人になったら勝手に調べて勝手に感動するはず。だからこの佐渡にいる皆様の活動を通じて、何かがあるヒントだけでも心に残るように伝えていったら、大人になった時にこの佐渡の素晴らしさを改めて自分で気づいて自分の宝物に出来るんじゃないかと思う。佐渡大好き！

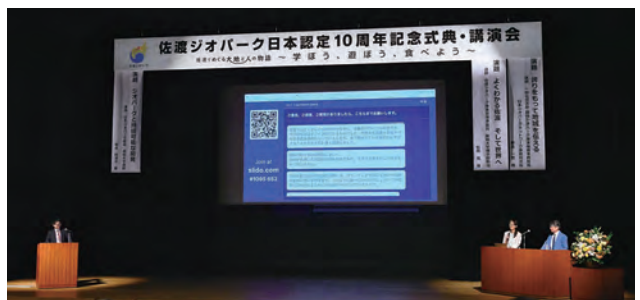
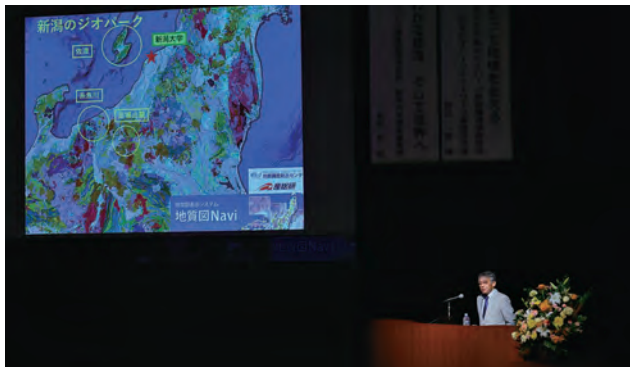
(新名) 子ども達に何かがあるというのを伝え続けていったら、その子達がお宝をたくさん見つけていってくれる。持続可能な「人づくり」「島づくり」をしていくには、社会が変わる、人が変わる必要がある。そのためにジオパークを使って皆で一緒に地域を作り上げていく。そんなことが今後の佐渡ジオパークには求められるのではないかな。

パネラーによる講演会

2023年7月8日(土) (13:00~15:00)
会場：アミューズメント佐渡 大ホール

講師

- ① 松岡 篤 様 佐渡ジオパーク推進協議会会員、新潟大学理学部教授、理学博士
演題：よくわかる佐渡 そして世界へ
- ② 新名 阿津子 様 日本ジオパーク委員会委員、高知大学講師、博士(理学)
演題：ジオパークと持続可能な開発
- ③ 野邊 一寛 様 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構事務局長、
特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク事務局次長
演題：誇りをもって地域を伝える



ジオ科学体験教室

2023年7月8日(土) (13:00~15:00)

会場：アミューズメント佐渡 展示室

演示実験

- ① 火山を作ろう ② 火起こし

体験・ものづくり

- ① 偏光万華鏡 ② 化石レプリカ ③ 貝殻アート

新潟圏域ジオパーク体験教室

- ・糸魚川ジオパーク協議会 「ヒスイ探し」
- ・苗場山麓ジオパーク振興協議会 「土の中のお宝を見つけよう！」



講演会他

子どもの学習発表

2023年7月8日(土) (展示10:00~15:45
コアタイム15:00~15:45)
会場：アミューズメント佐渡 小ホール

各学校ごとにジオパーク学習の成果をポスターにまとめ、会場に展示しました。
コアタイムでは、ポスターセッションの形式で発表しました。

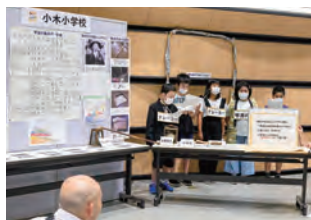
発表者と発表内容

○ポスター発表

- ・小木小学校5年生：琴浦の横井戸について
- ・行谷小学校ジオクラブ：国中平野の成り立ちとトキについて
- ・内海府小学校ジオクラブ：ニツ亀のジオ的魅力
- ・赤泊小学校6年生：赤泊地域のジオパーク(ウミユリ化石・化石漣痕跡・腰細海岸の生き物)
- ・真野小学校6年生：佐渡の成り立ちと真野地域のジオサイト(人面岩)
- ・両津小学校ジオクラブ：両津っ子の加茂湖物語(加茂湖の成り立ちと生き物)
- ・加茂小学校ジオクラブ：発見！加茂小ジオの魅力(ドンデン山の石、青ネバ登山道の植物)
- ・新穂小学校：新穂を探検する！パート1(新穂銀山と清水寺、田んぼの生き物)※ポスターの掲示のみ

○佐渡市科学作品展 ジオパーク賞受賞作品

- ・赤泊小学校4年生(現5年生) 岩間 祥吾
作品名 佐渡ジオパークめぐりを続けたよ！(4年目)～宿根木コース～
- ・金井小学校5年生(現6年生) 本間 統惺
作品名 この石何さい？～ぼくが集めた佐渡の石と化石の年表・標本



ジオパークガイド意見交換会

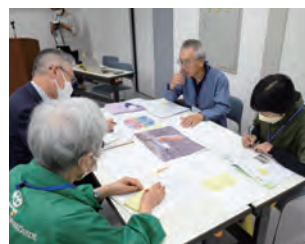
2023年7月8日(土) (16:00~18:00)
会場: アミューズメント佐渡 2階 文弥人形室

ジオパークガイド意見交換会では、全国各地からジオパークガイドが集まり、グループワークを通じて意見交換を行いました。各グループでは、それぞれのガイドの体験談やガイディングに対する考え方など活発な意見交換が行われ、大いに盛り上がっていました。

テーマ: 『お客様に合わせた楽しくわかりやすいガイド案内とは』

コーディネーター

野邊 一寛 様 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構事務局長、特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク事務局次長
新名 阿津子 様 日本ジオパーク委員会委員、高知大学講師、博士(理学)



赤坂アカさんサイン会

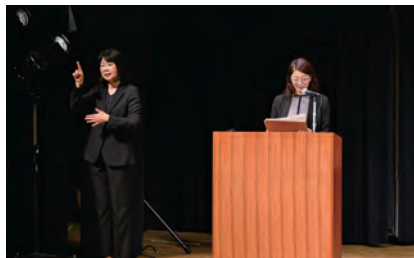
2023年7月8日(土) (12:15~16:00)
会場：アミューズメント佐渡 ホワイエ



報告

受付・展示等会場様子

2023年7月8日(土)
会場：アミューズメント佐渡



参加人数

2023年7月7日(金) ・エクスカーショ ・祝賀会(立食)	参加人数:59名 参加人数:89名
2023年7月8日(土) ・記念式典 ・ジオパークガイド意見交換会	参加人数:約1,000名 参加人数:42名



二ツ亀

記念品紹介



佐渡島の伝統工芸品
『無名異焼』のフリータンブラー
製作：北沢窯



佐渡ジオパークマドレーヌ
製作：菓子工房クリュ

閉会

香遠 正浩

佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業実行委員会 実行委員長
佐渡市教育委員会教育長



記念式典の閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずもって、基調講演講師の新名阿津子様、パネラーの松岡篤様、野邊一寛様、赤坂アカ様から、示唆に富むお話を聞きすることができました。ありがとうございました。

また、この記念式典に、佐渡市民の皆様はもちろん、島外・県外からも大勢お越しいただき、ありがとうございます。お陰様で、盛大に執り行うことができましたことを、心から感謝を申し上げます。

午後からもたくさんのプログラムをご用意しておりますので、お時間の許す限り、ご参加いただきたいと思います。

さて、佐渡ジオパークは、佐渡の魅力を生かし、日本ジオパークに認定していただくことで、たくさんの方々との繋がりが、また多くの方々を支えられ、活動してまいりました。佐渡でジオパークの取組を始めようとしてご尽力いただいた方々、その活動を広めるためにご協力くださった関係者の皆様、そして情報交換しながら共にジオパーク事業を推進してくださった日本中に広がるジオパークネットワーク会員の皆様など、様々な方々からお力添えをいただき、10周年を迎えることができました。

これを節目に、これからまた新たな10年に向かって歩み始めます。先ほどのパネルディスカッションでもお話いただきましたように、この島で誰もが安心し、心豊かに暮らせる「島づくり」と、郷土を誇りに思い、愛する「人づくり」を進めながら、より多くの皆様から親しまれ、楽しんでいただけるよう、努めてまいりたいと思います。つきましては、今後もより一層のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、ご臨席賜りました来賓の皆様、ご出演くださいました方々、記念事業を盛り上げてくださいました関係各位に感謝を申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

SADO GEO PARK

佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業実行委員会